

## 仁済大学報告

医学部医学科 3年 池田 隆史

2015年3月15日から3月21日まで仁済（インジェ）大学のPBL実習に参加させて頂きました。

合計7人の医学生からなる私達のPBLチームは、年配の男性模擬患者さんがチーム代表の医学生扮する医師に「からだにむくみがあるんです。」と訴えてくるのを観察するところから始まりました。これにより私達は「この（模擬）患者さんにどのように対処し、その悩みを解決すればよいか？」ということを考えなければならなくなりました。これがおそらく今回のProblem（問題）なのでしょう。PBLとはProblem（問題）に基づいた学習だからです。

私達は、「一般にむくみの原因としてどんなものがあるのか？」を意見交換して、それから「追って行った問診の結果を考慮すると、どの原因が可能性が高く、あるいは低いと考えられるか。」さらに「またそれを確かめるためにはどのような検査が最適か。」といったことまで話し合い、最終的に結論をまとめ、全体討議で発表しました。合計4日間という比較的長い時間をかけているのも興味深い点です。その一日一日、その日自分たちがわからない知識をLEARNING GOAL（学習の目標）と称して、チームメンバーで分担して次回までに調べてくることで、今回はそれを参考に議論をすすめていきました。

このLEARNING GOALが面白いもので、知識（たとえばfoam（泡）とbubble（同じく泡）の違い）にしても、「それを自分がチームメンバーの前で説明できなかった反省」という点から、そして「その知識こそまさしく実際に現在このPBL実習で求められている知識である」という点から、それら2点から本当に“知ろう”と興味をもつことができたと感じています。この学びは、仁済大学の医学生の私に対する親切なコミュニケーションなしには無かつたらうと思います。

一週間の生活も、仁済大学の石大賢教授のご厚意により、寄宿舍をご手配頂き、不自由なく生活することができました。ただ洗濯機だけは無かったので、仁済大学の学生に依頼したところ、日々多忙な生活を送っているにもかかわらず快く引き受けてくれました。最終日前日に、PBLチームメンバーたちが連れて行ってくれた通称ダイヤモンドブリッジなる橋は、ネオンが輝く大きな橋でした。私達はそのたもとに腰をおろして、おしゃべりやゲームをして、きれいな風景の中、忘れられないくらい楽しい時間を共有できました。仁済大学の医学生たちのホスピタリティは素晴らしいものでした。

このような貴重な経験をさせて頂き、石大賢（Dae-Hyun Seog）教授をはじめ宿舎等の世話をしてくださった事務の先生方、そして仁済大学の医学生の方々には大変感謝しております。

